

評価項目	評価の観点	担当部	年度末総括	評価
【重点目標1】 人権に関する危機管理と安全・安心な学校づくりのための取り組み	○いじめや暴力・暴言を許さない学校づくりを進めるために、生徒が発する小さなサインや人間関係の悩みを見逃さず、早期発見・早期対応ができたか。	(生徒支援部)	・学校生活や人間関係の悩みに対して、HR活動、授業、班活動を通して情報共有をし、問題解決に努めている。 ・潜在的な問題についても、あらゆる場面で見逃さないように取り組んでいく。	B
	○生徒に対する人権尊重や安全・安心な学校づくりを推進するために、教職員の意識啓発を図り、生徒の心情に寄り添った教育を推進できたか。	(保健厚生部)	・研修を通じて職員の意識啓発を図り、生徒にとって安全・安心な学校づくり・人権尊重推進のために生徒の心情に寄り添った教育推進に全職員で取り組んでいく。	B
	○防災や事故防止の意識を高め、生徒自らが身を守ることができる力を育成できたか。	(教務部)	・9月の防災訓練では、より実践的な場面を想定し、事前に予定時刻を告げず訓練を実施した。大きな混乱もなく実施できたものの、さらに速やかな避難行動が求められる。東海地震指定地域として、震災時の行動について知識学習を深めた。また、オクレンジャーによる生徒・職員への安否確認を試行したが、一部未読や未返信があり、対処法を考えたい。	B
【重点目標2】 基本的な生活習慣の確立と心身の健康を維持するための取り組み	○校則の意義や道徳心の大切さを理解させ、組織や集団においてルールやマナー・秩序を自発的に守る指導をとおして、健全な人権感覚や規範意識を育むことができたか。	(生徒支援部)	・校内の規則について、校友会・自治部と連携を取りながら、生徒を交え、ルールの在り方や自らルールを守るという気持ちを醸成させるよう取り組んでいる。	B
	○集団での人間関係づくりや学校での居場所づくりを心がけるとともに、学校生活への不安や悩みなどに対して心のケアができたか。	(生徒支援部)	・学校生活・家庭生活への不安や悩みについて、養護教諭を中心にケアをし、生徒支援部と連携を取りながら、集団での人間関係づくり・学校での居場所づくりに取り組んでいる。	B
	○気持ちのよい挨拶や思いやりのある人間関係を形成させ、楽しく明るい学校生活や校風づくりを醸成できたか。	(生徒支援部)	・全職員及び風紀委員会による挨拶運動を通して、気持ちよく過ごせる学校生活づくりに取り組んでいる。 ・クラスへの掲示を通して、安心・安全な学校生活を送れるよう規範意識を醸成させるよう取り組んでいる。	B
	○学習指導と関連付けながら日常的な生徒支援の充実を図るとともに、多様な背景を持つ生徒の個別理解を深め、問題行動を未然に防ぐ予防的指導ができたか。	(生徒支援部)	・学年会・生徒支援部会を通じて問題を抱える生徒の情報共有や問題の早期発見・対応に取り組んでいる。 ・外部の機関などと連携を取りながら、生徒の安全や問題行動の予防的措置に取り組んでいる。	B
	○清掃・美化活動をとおして、生徒自らが学習空間や学校環境を整えるとともに、エコ意識やリサイクル意識を身につけさせ、公共心や社会性を育むことができたか。	(保健厚生部)	・美化委員の当番活動を通じて学習環境を自ら整え、できるだけゴミを出さない生活に取り組んでいる。また、ゴミ分別・リサイクル意識も高めながら、公共心・社会性の向上に努めている。	B
【重点目標3】 多様な学びの提供と基礎学力を向上させるための取り組み	○授業の心構えや授業規律にもとづき、授業時間の厳守や学習に向かう姿勢、学習のねらいを意識・理解させ、3観点を踏まえた座学や実験実習を行うことができたか。	(進路支援部)	・「授業の心構え」により授業を受ける心の準備・授業中の態度を強調した。また、3観点を踏まえた授業では、特に「思考・判断・表現」「主体的な態度等」を充実すべく授業の形態や教材の工夫を行った。	B
	○生徒の学習意欲を喚起し、基礎学力の定着を図るために、教材の開発や工夫、外部講師の活用や校外学習、ICT機器や視覚聴覚機器の活用など授業改善ができたか。	(教務部)	・電子黒板やBYOD端末の利活用では、教材提示やレポート作成、調べ学習等で使用頻度が高く、「分かりやすい」「理解が深まった」などの声が多い一方、学習の振り返り際にはプリントやノートを使った学習を求める声も見られる。	B
	○学習評価等を活用し、分かりやすい授業の実践や生徒に対する学習支援をとおして、一人ひとりにできる自信と学ぶ喜びを実感させ主体的に学ぶ姿勢を醸成できたか。	(教務部)	・二学期末の生徒の授業評価によれば、「私は集中して取り組んでいる」約84%、「進度や難易度は自分にとって適切と感じる」約78%、「先生は関心を高め、分かりやすい授業をしている」約79%であった。生徒の理解度やノートの書き取り状況を観ながら、授業進度の調整や、紙媒体とデジタル教材のバランスをとりながら授業を進めていくように努めたい。	B
【重点目標4】 地域連携活動の推進と信頼される学校づくりのための取り組み	○校友会、班活動、農業クラブ等の課外活動の目標達成に向けて、主体的かつ協働的に活動できるよう適切な助言・指導をすることができたか。	(自治活動部)	・生徒たちの積極性を尊重しつつ、「なぜやるのか、どうやるのか」といった活動目的の意識づけや粘り強い活動をするための助言を適切に行うことで、協働的かつ主体的な提案・実践をする生徒たちを指導することができた。	A
	○生徒が学校の特色や伝統を尊重し、学校生活の身近な諸課題の解決や学校文化の創造に向けて、主体的に活動できるよう支援することができたか。	(自治活動部)	・各種行事での積極的なアイデアの実践や、全校生徒が思いをつぶやく意見箱の設置など、心地よく生活できる学校づくりを目指す生徒たちの主体的な気持ちに寄り添い、その実現のための活動を支援することができた。	A
	○地域連携や地域貢献に係る活動に積極的に参加することをとおして、地域や産業に対する関心・理解を深めることができたか。	(農場部)	・県の特色化・魅力化、信州学などの諸事業で、地域の産業支える社会人講師を招いて実践的かつ幅広い知識技術の習得ができた。これらの取組から地域や産業に対する関心・理解を深めることができた。	A
	○学科・コースの特色を生かした専門的な知識・技術や高校生の発想・アイデアを活かし、地域の問題解決や産業振興につながる実践的・探究的な活動を行うことができたか。	(農場部)	・今年度も地域との連携を深めた学習活動が見られた。特に、地元自治体等と連携し、伝統野菜の栽培の生産拡大とブランド化・消費拡大を目的に、地元大型店で販売会や課題研究では地域を意識した取り組みで実践的・探究的な活動を行うことができた。	A
	○資格取得の意義や目的を理解させ、生徒一人ひとりが目標をもって自発的に検定や資格に取り組むことができるよう支援することができたか。	(農場部)	・新学科となった1年生では資格を計画的に実施し、意識づけを行って臨むことができた。また、授業に関連した資格を単年度でなく、長期的なビジョンで取得計画に基づいた学習ができた。	A
【重点目標5】 進路実現とキャリア形成のための取り組み	○個々の生徒の実情や多様化・複雑化する進路希望に応じた計画的・段階的な進路支援と、進路実現のための個別の学習指導と進路情報の提供・活用ができたか。	(進路支援部)	・個別での進路支援となり今まで以上に能力を使う。今一度生徒の実情に合わせるよりは、タブレットを活用した指導や、生徒自らの調べ学習が必要に感じる。	A
	○進路講話やガイダンス、職場体験や事業所見学等の多様な機会を活用し、生徒一人ひとりのキャリア形成を支援することができたか。	(進路支援部)	・就職や進学など自らの将来に対する考えをもった生徒が少なく夏季で15名の生徒がインターンシップに参加して自分のキャリアを考え始めた。外部などのガイダンスには毎回10～20名ほど参加して進路に取り組んでいる。	A
	○家庭との連絡・相談を密にし、生徒の個性や適性、希望に応じた進路を実現させることができたか。	(進路支援部)	・3年生になるまでには就職・進学いずれかでなく、また自営するか自分の進むべき道を家族で検討してもらえることが進路に取り組む大暫定になる。4月当初の調査では、具体的な進路先を上げられるようにする	B